

丹沢ボラネット瓦版

2022年2月号 No.111



↑令和4年1月7日 表丹沢 菜の花台の雪景色の写真 (撮影 小林さん)



↑令和4年1月7日 雪の日のウサギの足跡 (表丹沢林道 撮影 小林さん)

令和3年度丹沢大山自然再生活動報告会

コロナ禍の影響により昨年度は中止となっていた丹沢大山自然再生活動報告会が、第3期丹沢大山自然再生計画のメの年となる今年度は事務局の皆様の努力によりオンラインで開催されました。今回の瓦版は、初のオンライン開催となった報告会の様子を丹沢大山自然再生委員会事務局さまに紹介していただきます。

丹沢大山自然再生活動報告会をオンラインで開催しました！

丹沢大山自然再生委員会事務局

令和3年12月18日（土）に2021年度丹沢大山自然再生活動報告会を開催しました。活動報告会は、例年、日本大学藤沢キャンパス等大きな会場で開催してきましたが、昨年度はコロナ禍のこともあって残念ながら中止とした経緯があります。2021年度は是が非でも開催したいという丹沢大山自然再生委員会の総意があって、この度初めての試みとしてオンラインで開催することとしました。参加者は総勢約70名でした。

活動報告会は二部構成で行われました。第一部は丹沢で活動する6名からの発表でした。最初に、丹沢大山自然再生委員会事務局の濱野から丹沢大山自然再生委員会について紹介しました。2番目に、五十嵐 聡氏（NPO法人丹沢自然学校）から「檜洞丸での定点撮影調査から見た植生の変化—2010年と2021年を比較して」の発表がありました。3番目に、石塚康彦氏（NPO法人野生動物救護の会）から「自動撮影カメラを用いた神奈川県自然環境保全センター自然観察園における鳥類調査」の発表がありました。4番目に、長澤展子氏（公益財団法人神奈川県公園協会）から「スタッフが見た丹沢10年」の発表がありました。5番目に、金子裕明氏（神奈川工科大学）から「2系統のシロタニガワカゲロウが相模川に生息するのはなぜか？」というテーマの発表がありました。最後に、土井寛大氏（日本獣医生命科学大学大学院）から「日本紅斑熱ベクターマダニの分布 —丹沢・箱根から三浦半島まで—」の発表がありました。どの発表もスライドが見やすく、音声も聞き取りやすく、しかも内容が濃いものばかりで、丹沢で活躍する団体・研究者の多様性が伺えました。

第二部は総合討論でした。テーマを「近年起きている自然の脅威に対して、自然再生の取組はどこまで対応可能か？」として、3名から話題提供していただきました。最初に、内山佳美氏（自然環境保全センター）から「令

和元年の台風による森林被害～水源かん養機能のモニタリングの視点から～」の発表がありました。次に、北村 栄氏（秦野市環境共生課）から、「秦野市におけるナラ枯れ被害の状況と対策について」の発表がありました。最後に小林昭五氏から「丹沢大山登山環境意識調査から見たもの」の発表がありました。時間が限られていたため質問を十分に受け付けることができず、また、テーマが大きいこともあって議論を深めることに限界もありました。それでも勝山輝男委員長がとりまとめて、再生委員会として丹沢大山の自然を見続け、異変をすぐに捉える準備をすることが必要であると締めてくださいました。

事務局は当初、画面や音声の不通を心配していましたが、大きな問題もなく終了することができました。アンケートでオンライン開催と対面開催の希望を聞いたところ、両者ともに拮抗した結果になりました。いずれの方法においても次年度以降も活動報告会を開催していきます。引き続きご支援とご協力をお願いします。



丹沢大山自然再生委員会事務局（自然環境保全センター）の会議室での開催状況。プロジェクターを用いてパソコン画面を壁（スクリーン）に映写した。

丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

丹沢環境推進会議の黒坂博さんから原稿を投稿していただきました。黒坂さんは令和4年3月までの任期でボラネット世話人会の会計を務めてくださっています。今回は丹沢大山ボランティアネットワークの活動に関する思い出を綴ってくださいました。

丹沢大山ボランティアネットワーク活動に携わって

丹沢環境推進会議
ボラネット世話人会・会計
黒坂 博

今回の世話人会2年はコロナ関係で通常の対面による会合や、諸々の行事などほとんどできずじまいで終わってしまいました。活動内容について知ることができなかつたのが残念です。

そんな中で、5年に一度のアンケート、そして集計、分析を小林代表と共に関わる事ができて、よい思い出になりました。

アンケート調査では、いろいろな人に出会い、山登りやハイキングを楽しんでいる人たちを知りました。朝一番のバスを待っている人たちも、たいが



アンケート活動の様子（西丹V C）

いの方はアンケートに答えてくれました。山歩きをする人たちは、気さくな人が多いようです。私も朝の始発に乗るために早起きをしました。

定年になったら、こういう丹沢関係でボランティアをしたいと思っている。どうすればいいか聞いてくる人もいました。お礼に配っていたティッシュにかかれていた説明用の案内を見てもらって、そこに連絡をしてみてもいいですかとか返答したこともありました。

多くのボランティア団体が丹沢大山に関わっているのも知りました。自然環境に関心を持っている人も多く自分の知らないこととお話してもらいました。



ボラネット活動の様子（活動報告会）

調査結果では、入山回数が初めてから、2回以上、10回以上など、20年間同じように推移していること。その中で、社会状況によつての年代別の変化が見られたり、車社会を反映して自家用車の乗り入れは増加している事などを知りました。ボランティア団体の種々の活動によつて自然環境は復活傾向にあり、登山者に楽しんでもらいながら、環境維持も進められていることがわかりました。ありがとうございました。

ボラネット加盟団体の NPO 法人 野生動物救護の会さまが最近の活動状況と会の PR を寄せてくださいました。

NPO 法人 野生動物救護の会の紹介と活動報告

野生動物救護の会事務局

私たちは野生動物の保護および救護に関わる活動を通じて、自然環境と生物多様性の保全に貢献することを目標に、自然環境保全センター傷病鳥獣救護施設において清掃や動物の世話など軽作業に従事する野生動物救護ボランティアを中心に活動しています。また、厚木市七沢周辺において丹沢山系に生息する野鳥や哺乳類の観察、彼らの休息や繁殖のための巣箱設置などの保護活動を実施しています。さらに私たちが救護ボランティアや自然観察を通じて野生動物たちから学んだ知識を多くの人たちに伝えるための普及啓発活動や県内の小学校において傷病鳥獣保護活動に関する出前授業を実施しています。

傷ついた野生動物たちが再び自由に生きられるように世話をする救護ボランティアを行いながら、人間社会との軋轢により傷つく野生動物を減らすための調査や普及啓発にもチャレンジしてみたい方、ご連絡ください。



令和3年11月23日に秦野市鶴巻温泉駅前で開催された「自慢の味・人・土産を発見！秋のにぎわいフェア」に参加しました。エデュケーションボードのオオコノハズク/コノハちゃんが活躍しました。



令和3年12月11日に神奈川県自然環境保全センター傷病施設内の大掃除を県の救護ボランティアの方たちと一緒に行いました。皆さんマスクをして黙々と頑張りました。おかげで動物たちは良い新年を迎えられたと思います。



自然環境保全センター野外施設の様子。Y34 杭付近の風景（令和4年2月）

最後に僭越ではございますが、この瓦版 111 号の編集を担当させていただきました野生動物救護の会 遠藤順一の紹介をさせていただきます。私は今年度から前任の安井啓子さんに代わりボラネット世話人会 監事に就任いたしました。普段は自然環境保全センターの傷病鳥獣保護施設で動物たちの世話をしていたり、自然観察園内をうろうろと歩き回っております。今回は瓦版の編集を任せていただけて、丹沢大山ボランティアネットワークの活動に少しですが参加できて楽しかったです。来年度は様々なボラネットの活動を通して多くの方にお会いできることを期待しております。その節は宜しくお願い致します。



ムササビの幼獣を世話している（遊んでいる）私。この子は無事に育てて去年の秋に山に帰りました。

丹沢ボラネット瓦版2022年2月号(通巻111号)2月15日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五